

佐倉市企画制作部広報課

## 川城 那美

佐倉市役所広報課の川城と申します。では、佐倉市の平和事業ということで、本日は主な平和事業の概要と、その中で特に佐倉平和使節団について詳しくお話しさせていただきます。まず、佐倉市の概要としまして、千葉県北西部に位置し、日本遺産に認定された城下町の面影が残る町並みと、印旛沼から広がる豊かな自然が調和した街となっております。歴史的には古くから北総の拠点であり、江戸時代には佐倉城の城下町として栄えました。明治時代になると佐倉城が取り壊され、近代的な装備を調えた陸軍の連隊が置かれました。千葉市さんも連隊が置かれていたということですが、佐倉連隊にも千葉県内外から若者が集められ、多いときには約4000人が厳しい訓練に従事しました。原爆投下時に広島で演習を行っていて被爆した方もいたということです。写真のほうは連隊の飛び降り訓練の様子です。訓練に使われた12段の階段は、現在も佐倉城址公園に残されていて見ることができます。【写真①佐倉連隊】

次に、平和条例と平和都市宣言。佐倉市は、戦後50年の節目に当たる平成7年に平和条例を制定し、平和都市宣言を行いました。条例の制定は全国で4番目でした。この条例に基づき、世界の恒久平和と核兵器廃絶への意識高揚のため、平和事業に取り組んでおります。

では、主な平和事業をご紹介します。特に若い世代に向けてというものが二つありまして、佐倉平和使節団。こちらは後で詳しくお話ししますが、市内中学生の代表が広島、または長崎の被爆地を訪問して平和学習を行っております。また、二つ目が、小学校平和祈念講話と映画会ということで、市内小学校で戦争体験者の講話と、戦争についての映画を上映しております。ここ2年は、広島で被爆された方にお話をさせていただいています。小学生ぐらいの年齢ですと、おじいちゃんおばあちゃんも戦後生まれという子が多いので、授業で習ったときよりも身近に感じられて、戦争はとても怖いものだったといった感想をもらっています。また、毎年8月15日には、佐倉市平和式典を行っております。戦没者の追悼、および恒久平和を祈念して黙とう、佐倉平和の鐘の鳴鐘、市長による平和への誓い、佐倉平和使節団による学習の報告を行っております。

佐倉平和の鐘というのが、こちらです。【写真②平和の鐘】佐倉平和の鐘は、広島平和記念資料館にある平和の鐘と同じく、香取正彦さんという方が作られたものです。この方は、梵鐘製作家として人間国宝にも選ばれた方になります。鐘の正面には、吉田茂元首相の筆による平和の文字と瑞鳥が刻まれ、裏面には佐倉市のためにというふうに刻まれています。

次に、平和祈念パネル展では、年数回、各地から借用した戦争に関する資料等を市役所ロビーに展示しております。資料は、広島、長崎、沖縄等の資料館からお借りしたり、東京大空襲の資料を墨田区の資料館からお借りしたりしております。また、市民団体との共催行事も行っておりまして、最近では、大体、毎年、二つの市民団体さんと協力し、講演会や展示会を行っております。左側の写真は、広島に投下されたリトルボーイの実物大の模

型になります。また、長崎のファットマンの模型もありまして、こういった講演会するとき等に展示しております。【写真③原爆模型】

また、その他ということで、最近では戦後 75 年事業として、佐倉平和祈念講演会『語り継ぎたい記憶』というものを開催いたしました。コロナで延期になりまして、令和 3 年 9 月の開催となりましたが、市民の方を中心に 200 名ほどご参加いただきました。講演会では、広島で被爆された方のお話や、長崎原爆家族・交流証言者、被爆された方のお話を引き継いでくださる方のお話ですとか、映画上映などを行いました。長崎の方は、コロナ禍でしたので長崎からリモートでお話いただきました。また、先ほど平和首長会議の、小泉様もお話しされていましたが、『子どもたちによる”平和なまち”絵画コンテスト』にも令和元年から参加させていただいております。

それでは、先ほどちょっとお話ししました佐倉平和使節団について詳しくお話しさせていただきます。平成 8 年から毎年夏に市内中学生の代表を被爆地に派遣しています。新型コロナウイルス感染拡大により、令和 2 年、3 年は派遣を中止しましたが、今年度は 24 人を広島市に派遣しました。これまでに合計 409 人を派遣しております。使節団の生徒さんの構成というのが、市内中学校 11 校から各 2 人と、私立の学校に通う市内在住の中学生 2 人で合計 24 人となっております。

また現在、中学生の派遣費用は、平成 26 年に設立した佐倉平和使節団基金から充当しております。この基金は、佐倉市民であった山本昌司さんという方から市に寄付された約 1 億 3000 万円を原資としております。山本さんは、残念ながら平成 27 年に亡くなりましたが、このご遺志を受け、近年、12 人であった派遣人数を平成 30 年度から 24 人に増員いたしました。先ほどの浦安市さんは 18 人派遣されているということで、非常に多いなと思ったんですけども、他の自治体では大体 10 人ぐらいの派遣のところが多いようですので、24 人という多くの中学生を派遣できることに大変感謝しております。

山本さんという方は、11 歳のときに広島で被爆され、佐倉市に移り住んでからは、佐倉市原爆被爆者の会の代表を務める等、平和のために活動されました。平和使節団の中学生に、「皆さん、被爆地訪問では友達をつくり、話をしてください。そして、平和が続くようリードしてもらいたい。皆さんが笑顔でいるのが一番です。平和な世の中が続くよう願っています」と激励の言葉を残していらっしゃいます。平和使節団は、このときの山本さんの映像を訪問前に見て、山本さんの思いも胸に被爆地を訪問しています。

では、具体的に今年の広島訪問の活動の様子をお話しいたします。今年は 7 月 27 日から 29 日の 2 泊 3 日で広島を訪問いたしました。1 日目は、翌日のフィールドワークに向けて、どこへ行きたいか、何を学びたいか、班ごとに話し合いました。また、広島平和記念資料館の被爆体験証言者でいらっしゃる近藤康子さんからお話を伺いました。2 日目は、平和記念公園にて団員たちが作った折り鶴の奉納と献花をしまして、平和記念資料館で被爆資料等を見学いたしました。また、ヒロシマピースボランティアの方のご案内で平和記念公園にある慰霊碑や、被爆樹木、原爆ドームなどを見学しました。また、午後は、班に分かれて広島市内の被爆遺構を見学しました。班ごとに平和記念公園のレストハウスや、本川小学校平和記念資料館等を巡り、最後に袋町小学校平和資料館に集合して見学をさせていただきました。夜は、2 日間で学んだことを話し合い、発表と意見交換を行いました。

最終日は、広島城と縮景園を見学しました。現在は美しい広島城と縮景園ですが、ボラ

ンティアガイドの方のお話で、原爆により天守閣が倒壊したことや、熱線で赤く変色した石垣、被爆を耐え抜いたユウカリの木が残っていること等を知りました。広島訪問後には8月15日に佐倉市平和式典に参列し、広島訪問報告を行いました。また、11月12日には佐倉市戦没者追悼式に参列し、平和の詩を群読しました。

次に、平和使節団で学んだことを伝えるということで、被爆地訪問後は現地での学習だけで終わらせることなく、各中学校の集会や、佐倉市平和式典で学習報告を行い、被爆地で学んだことを学校の仲間や市民に伝えています。また、平和祈念文集を作成し、図書館等に配布しております。今年の平和祈念文集から、いくつか中学生の言葉をご紹介します。「平和使節団での経験がなかったら、原爆が投下され、多くの人々が亡くなったという結果だけしか知ることができませんでしたが、現地でのお話や実際の場所を訪れたことによって、当時の苦しみや痛みを心で感じ、理解することができました」「この出来事は日本だけで共有するのではなく、海外にも広げることが大切だと思います。生きている全ての人々が原爆の恐ろしさを知らなければ、世界から原爆が消えることはありません。私は友達や親戚に原爆の恐ろしさを伝えるとともに、英語を学び、将来、外国へ行ったときに誰かに伝えられる準備をしようと思います」

また少し飛ばしてしまいましたが、こちらの右側の下のところ、感想のところ、ご紹介いたします。「献花台に花を携えた後、真っすぐ前を見ると、『安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから』、平和の灯、原爆ドームが見える。平和な世へ向かう道しるべとなるものが、ぎゅっと集まったような、そんな場所でもあると思う。石碑に刻まれた言葉には戦争をもう二度と起こさないという思いが、平和の灯には水を求めて亡くなった人々を慰めるとともに、世界から核兵器がなくなるまで燃え続けるという役割がある。被爆国日本の広島から平和の輪をつなげたい」

このように、被爆した建物等、実際に見て、また、被爆された方のお話を伺って、平和使節団の中学生たちは、戦争や核兵器の恐ろしさを心から感じたようでした。また、自分の経験としてとどめるのではなく、周りの人や後世に伝えていきたい。語学を学んで海外の人にも伝えたい。政治や世界情勢に関心を持って学び続けたいといったように、平和のために自分は何ができるかという視点で考えられたことは平和使節団の大きな成果だったと思います。

最後に、平和事業の課題ということで、戦後77年が経過し、戦争体験者が少なくなっていく中、戦争の記憶をどのように残していくかというのが日本全体の課題だと思います。平和事業を行っている中で、やはり若い世代が学校の授業等でしか戦争を知らないため、身近なこととして考える機会が少ないと感じました。実際に日本で起こったことであると実感するには、戦争体験者のお話を映像で残したり、戦争体験を引き継ぐ人を育成すること、また、被爆遺構を保存する等、当時の生の記憶を残していく必要があると思います。

佐倉市では、戦争体験者のお話や平和事業の様子を映像に残すことにも取り組んでおります。平和使節団につきましては、今年のものだけでなく、過去のものもありますし、もう一つ、お写真、載せておりますのは、昨年9月の講演会でお話いただいた方です。こちら、広島で被爆された方で、腹話術でそのときのお話をされている方がいまして、こちらも映像をYouTubeで配信しておりますので、ぜひ皆さま、一度、ご覧いただければと思います。では、これで佐倉市の平和事業のお話、以上になります。ご清聴ありがとうございました。



【写真①佐倉連隊】



【写真②平和の鐘】



【写真③原爆模型】